

# 林業における労働災害防止対策

## 1 共通事項

- 保護帽の完全着用。
- 伐倒木・玉切材等が転落する危険のある箇所での上下作業の禁止。
- 危険作業箇所への危険標識の設置。
- チェーンソーの正しい使用。
- チェーンソー作業用防護衣の着用。
- 安全に配慮した作業計画の策定。
- 危険予知活動の実施。
- 現場班長による『安全現場宣言』の実施。

危険予知ミーティング



## 2 伐木作業

- 特別教育の実施。
- 伐倒方向の検討（真下方向、上方向の原則禁止）。
- 伐倒時の退避場所の確保。
  - ・ 伐倒方向の反対側。
  - ・ 伐倒予定木から3m以上はなれること。
  - ・ 退避場所に通じる退避路の障害物を取り除くこと。
- 伐倒前に、かん木、つる、浮石等を取り除くこと。
- 受け口の深さは、伐根直径の1/3以上とし受け口の角度は30度から45度とすること。
- 追い口の高さは受け口の高さの2/3程度とすること。
- 伐倒に際しては、くさびを使用すること。
- 伐倒合図を定め、その励行の確認を行うこと。
- 伐倒の際には、少なくとも、伐倒木の樹高の1.5倍の範囲を伐倒作業員以外の労働者の立入禁止区域とすること。

伐倒合図



退避場所の選定



## 3 かかり木の処理

- かかり木を処理する場合は、単独作業をさせ、作業前の作業手順の打合せを実施すること。
- 次に掲げる方法によるかかり木の処理は行わないこと。
  - ・ かかられている木の伐倒。
  - ・ 投げ倒し（浴せ倒し）。
  - ・ 元玉切り（かかり木の元玉を切り離す方法）。
  - ・ かかられている木の枝切り。
  - ・ かかり木を肩で担う方法。
- かかり木の処理は、けん引具等を利用して、安全で確実な方法を選択すること。
  - ・ 中大径木は、けん引具（チルホール等）とワイヤロープを用い、かかり木から離れて作業すること。
  - ・ 小径木は、棒、つる、木廻し等を使って、樹幹を回転させたり、元口をずらせたりして、外すこと。
- かかり木は、早期に処理すること。
- かかり木から離れるときは、標示をしておくこと。

